

IPA 情報発信第 165 号（2018 年 1 月）

2018 年 2 月 1 日

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）

理事長 富田 達夫

<IPA 情報発信第 165 号の内容>

今月のトピックス

1. 「情報セキュリティ 10 大脅威 2018」順位速報を公開

2017 年に発生した社会的影響の大きかった情報セキュリティに関するトピックを選出し、速報として順位を公開しました。個人では「インターネットバンキングやクレジットカード情報の不正利用」が、組織では「標的型攻撃による情報流出」が昨年同様 1 位でした。また、「偽警告」、「ビジネスメール詐欺」、「セキュリティ人材の不足」が、初めてランクインしました。

2. プラント関連事業者を狙う攻撃メールを多数観測

2017 年第 4 四半期（10 月～12 月）の「サイバー情報共有イニシアティブ」（J-CSIP）の活動内容を公表しました。今期は、プラント関連事業者を狙う攻撃メールが多数観測されたことが特徴です。

3. 国際規格に準拠した「IPAmj 明朝フォント」の新バージョンを公開

昨年 12 月に漢字約 6 万字が国際規格化されたことを受け、同規格に準拠した「IPAmj 明朝フォント」を公開しました。本フォントが導入されること等により、国際規格化された漢字の活用が進み、行政の一層の効率化や、民間事業者による文字入力のためのカナ漢字変換辞書等の開発が進展することを期待しています。

I. 安全な IT 社会の実現

1. 産業サイバーセキュリティセンターの第二期中核人材育成プログラム（平成 30 年 7 月開講）の募集
2. 「2020 年 1 月に Windows 7、Windows Server 2008 の延長サポートが終了 ～システム環境や業務内容に合わせた移行計画を～」を公開
3. 「情報セキュリティ対策支援サイト」を公開
4. 「暗号に関する国内外のガイドラインの実態調査の調査報告書」を公開
5. コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況及び相談受付状況 [2017 年第 4 四半期（10 月～12 月）]
6. 脆弱性対策情報データベース JVN iPedia の登録状況 [2017 年第 4 四半期（10 月～12 月）]
7. ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況 [2017 年第 4 四半期（10 月～12 月）]
8. 重要なセキュリティ情報（1 月）

Ⅱ. ITシステムの安心・安全の確保と開発・利活用の効率化

1. 「ソフトウェア開発力強化セミナーin 仙台」を開催
2. SEC セミナー開催報告（1月）とSEC セミナー開催案内（2月）
3. 共通語彙基盤イベント「官民データの利活用セミナー」を開催

Ⅲ. 未来のIT社会を担う人材の育成とビジネス支援・技術開発促進

1. 「ITパスポート試験」における合格者の最年長年齢を83歳に更新
2. 平成30年度春期「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）試験」及び「情報処理技術者試験」の受験申込みの受付を開始

今月のトピックス

1. 「情報セキュリティ 10 大脅威 2018」順位速報を公開

(担当：セキュリティセンター)

IPAは、1月31日(水)に「情報セキュリティ 10 大脅威 2018」の順位速報を公表しました。情報セキュリティにおける脅威のうち、2017年に発生し社会的影響が大きかったトピックの中から、情報セキュリティ分野の研究者、企業の実務担当者等から構成される「10 大脅威選考会」の投票により、トップ10を選出し順位付けしたものです。

「情報セキュリティ 10 大脅威 2018」も昨年同様に、「個人」と「組織」という異なる視点で10大脅威を選出しています。個人1位は「インターネットバンキングやクレジットカード情報の不正利用」、組織1位は「標的型攻撃による情報流出」となり、昨年から変動はありませんでした。また、個人では10位に「偽警告」、組織では3位に「ビジネスメール詐欺」、5位に「セキュリティ人材の不足」が、初めてランクインしました。

IPAでは、3月下旬にこの「情報セキュリティ 10 大脅威 2018」の詳しい解説をウェブサイトで公開する予定です。

「情報セキュリティ 10 大脅威 2018」順位速報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2018.html>

2. プラント関連事業者を狙う攻撃メールを多数観測

(担当：セキュリティセンター)

IPAは、1月26日(金)に2017年第4四半期(10月~12月)の「サイバー情報共有イニシアティブ」(J-CSIP¹)の活動内容を公表しました。

今期は各SIG²での参加組織拡大があり、全体では11業界227組織³の体制となりました。

今期の情報提供件数は1,930件であり、うち標的型攻撃メールとみなした情報は164件でした。また、IPAによる分析を経て、IPAが独自に入手した情報も含む123件の情報共有を傘下組織へ行いました。

今期は、プラント関連事業者を狙う攻撃メールが多数観測されたことが特徴です。これは、プラント等の設備や部品のサプライヤーに対し、実在と思われる開発プロジェクト名や事業者名を詐称し、プラントに使用する資機材の

¹ J-CSIP: Initiative for Cyber Security Information sharing Partnership of Japan

² SIG: Special Interest Group の略。J-CSIPでは、情報共有を目的に業界を軸にした組織をグループ化しており、SIGと呼んでいる。

³ 複数業界に関係する組織が、複数のSIGに所属するケースも現れている。ここでは延べ数としている。

提案や見積もり等を依頼する内容の偽のメールであり、短期間で多岐にわたる文面のバリエーションを確認しています。今期に標的型攻撃メールとみなした164件のうち、156件が本件に該当します。

「J-CSIPの運用状況」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/J-CSIP/index.html>

3. 国際規格に準拠した「IPAmj 明朝フォント」の新バージョンを公開

(担当：国際標準推進センター)

IPAは、1月29日(月)に「IPAmj 明朝フォント」の整備を完了し、Ver.005.01として公開しました。これは、文字情報基盤事業として推進してきた漢字6万文字の国際規格化が、2017年12月にISO/IEC 10646 (Universal Coded Character Set) 第5版の発行により達成できたことを受け、同フォントを同規格に準拠させたものです。

最新の国際規格⁴に対応したパソコン等の情報機器へ同フォントを導入することで、収録された全ての文字を活用できるようになります。

「IPAmj 明朝フォント」等が参照されることにより、国際規格化された漢字約6万文字の活用が進み、行政の一層の効率化が図られることに加えて、民間事業者による文字入力のためのカナ漢字変換辞書等の開発が進展し、豊かな文化を支える基盤となることを期待しています。

「IPAmj 明朝フォント」の新バージョンの詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20180129.html>

⁴ 国際規格に基づいたコードを用いることにより、本フォントに収録された全ての文字の表示や印刷等が行えるようになります。カナ漢字変換や手書き認識等によってワープロ等へ文字を手入力する場合、変換や認識用の辞書が対応した範囲の文字しか入力できません。フォントの導入だけでは辞書は拡張されず、別途辞書の拡張が必要となります。

I. 安全な IT 社会の実現

1. 産業サイバーセキュリティセンターの第二期中核人材育成プログラム（平成 30 年 7 月開講）の募集

（担当：産業サイバーセキュリティセンター）

IPA では、1 月 22 日（月）から「第二期中核人材育成プログラム（平成 30 年 7 月開講）」の募集を開始しました（2 月 9 日（金）締切）。

中核人材育成プログラムでは、受講生が近い将来、企業におけるサイバーセキュリティ対策の中核人材として活躍できるようテクノロジー（OT 及び IT）、マネジメント、ビジネス分野を総合的に学ぶ 1 年程度のトレーニングを実施しています。

昨年 7 月に開講した「第一期中核人材育成プログラム」では、電力、石油、化学、鉄鋼、ガス、自動車、通信、放送、鉄道、ビル等の業界から 76 名の受講生が集まりました。

今回は、本年 7 月に始まる本プログラム第二期の受講生を募集するものですが、引き続き、受講者が自社に近い環境での演習を体験できるよう、各業界のシステムを想定した模擬システムを使用します。

また、海外のトップレベルのセキュリティ対策のノウハウの獲得等を目的に、海外関連機関との連携トレーニングを実施します。

受講者募集の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/icscoe/index.html#section11>

2. 「2020 年 1 月に Windows 7、Windows Server 2008 の延長サポートが終了 ～システム環境や業務内容に合わせた移行計画を～」を公開

（担当：セキュリティセンター）

IPA は、1 月 22 日（月）に安心相談窓口日より「2020 年 1 月に Windows 7、Windows Server 2008 の延長サポートが終了 ～システム環境や業務内容に合わせた移行計画を～」を公開しました。

2020 年 1 月 14 日（米国時間）に、マイクロソフト社が提供している OS Windows 7 及び Windows Server 2008 の延長サポートが終了します⁵。

延長サポート終了後は、当該 OS に新たな脆弱性が発見されても更新プログラムが提供されません。そのため、サポートが終了した OS の使用を継続している

⁵ 日本マイクロソフト株式会社 Windows 7 & Office 2010 2020 年サポート終了
<https://www.microsoft.com/ja-jp/business/windows/endofsupport.aspx>
※Office 2010 も 2020 年 10 月 13 日（米国時間）に延長サポートが終了します。

と、ウイルス感染や不正アクセスによる情報漏えい、金銭被害等のリスクが高まります。

現在、Windows 7 及び Windows Server 2008 を使用している企業・組織においては、延長サポート終了までに、サポートが継続する新たな OS への移行等の作業を完了させておく必要があります。

「2020 年 1 月に Windows 7、Windows Server 2008 の延長サポートが終了～システム環境や業務内容に合わせた移行計画を～」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/anshin/mgdayori20180122.html>

3. 「情報セキュリティ対策支援サイト」を公開

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、1 月 15 日（月）に「情報セキュリティ対策支援サイト」を公開しました。

本サイトは、中小企業における情報セキュリティ対策の水準向上の支援を目的としており、対策を「知りたい」、「学びたい」、「始めたい」、「続けたい」中小企業の方々と、それを後押しする方々の活動をサポートするためのサイトです。

本サイトで提供している、中小企業向けの 2 つの無料ツール「5 分でできる！自社診断」、「5 分でできる！ポイント学習」の利用により、自社の情報セキュリティ対策の水準を自己診断し、その水準を高めるための学習を行うことができます。また、本サイトでは、中小企業への情報セキュリティの普及活動を行う「セキュリティプレゼンター」向けに活動情報の発信及びコンテンツ提供等の支援を行います。活動地域や保有資格等の条件によるセキュリティセンターの検索機能により、中小企業関係者が容易に地元のプレゼンターを探すことが可能です。

「情報セキュリティ対策支援サイト」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://security-shien.ipa.go.jp/index.html>

4. 「暗号に関する国内外のガイドラインの実態調査の調査報告書」を公開

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、1 月 31 日（水）に「暗号に関する国内外のガイドラインの実態調査の調査報告書」を公開しました。

近年、暗号は情報セキュリティの基盤技術として、情報システムの中で広く利用されています。また、組織の IT 担当者は、情報システムを安全に運用する

ために、暗号を適切に利用することが求められます。しかしながら、一般の IT 担当者が暗号について知見を持ち、自らの判断で適切に暗号設定をしてシステムを運用することは容易ではありません。

そこで、今後作成を検討すべきガイドラインの対象を明確化することを目的に、国内の暗号の利活用に関する課題やニーズの把握、国内外における暗号の利活用に関するガイドライン等の整備状況を調査しました。

「暗号に関する国内外のガイドラインの実態調査の調査報告書」の詳細については、次の URL をご覧ください。

https://www.ipa.go.jp/security/fy29/reports/crypto_survey/index.html

5. コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況及び相談受付状況 [2017 年第 4 四半期 (10 月～12 月)]

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、1 月 23 日 (火) に 2017 年第 4 四半期 (10 月～12 月) のコンピュータウイルス・不正アクセスの届出及び相談の状況を公開しました。公開内容の概要は、以下の通りです。

(1) コンピュータウイルス届出状況

今期のウイルス届出件数は 478 件でした。

不正プログラム検出数は 822,666 個、ウイルス検出数は 2,901 個でした。

(2) コンピュータ不正アクセス届出状況

今期の届出件数は 13 件で、そのうち被害があったのは 8 件でした。

(3) 情報セキュリティ安心相談窓口の相談状況

今期のウイルス・不正アクセス関連の相談件数は 2,363 件でした。

「コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況及び相談受付状況」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/txt/2017/q4outline.html>

6. 脆弱性対策情報データベース JVN iPedia の登録状況 [2017 年第 4 四半期 (10 月～12 月)]

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、1 月 24 日 (水) に 2017 年第 4 四半期 (10 月～12 月) の脆弱性対策情報データベース「JVN iPedia」(ジェイブイエヌ アイ・ペディア) の登録状況を「脆弱性対策情報データベース JVN iPedia に関する活動報告レポート」として公開しました。

今期に、脆弱性対策情報データベース「JVN iPedia」日本語版に登録された

脆弱性対策情報は3,719件で、昨年同時期（2016年10月～12月）の件数1,571件と比べて倍以上となっています。

また、2016年の登録件数は6,524件でしたが、2017年には13,792件と2倍以上になっており、過去最多となっています。2007年4月25日の公開開始からの登録件数は累計78,410件となりました。

「脆弱性対策情報データベース JVN iPedia の登録状況」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/report/JVNiPedia2017q4.html>

7. ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況 [2017年第4四半期（10月～12月）]

（担当：セキュリティセンター）

IPAは、1月25日（木）に2017年第4四半期（10月～12月）の脆弱性関連情報の届出状況をソフトウェア等の脆弱性関連情報の取り扱いに関する活動報告レポートとして公開しました。

今期の脆弱性情報の届出件数は70件で、内訳はソフトウェア製品に関するものが37件で累計3,895件、ウェブサイトに関するものが33件で累計9,628件でした。これにより、2004年7月の届出受付開始からの累計は13,523件となりました。

「ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/report/vuln2017q4.html>

8. 重要なセキュリティ情報（1月）

（担当：セキュリティセンター）

IPAでは、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報⁶」として公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA情報発信では2013年12月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身のPCやシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心

⁶ 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」…影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

「注意」…影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

がけてください。

1月は、「緊急」2件、「注意」3件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

Ⅱ. IT システムの安心・安全の確保と開発・利活用の効率化

1. 「ソフトウェア開発力強化セミナーin 仙台」を開催

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPA は、1月30日(火)にハーネル仙台(宮城県仙台市)にて「ソフトウェア開発力強化セミナーin 仙台」を一般社団法人宮城県情報サービス産業協会(MISA⁷)と共同で開催しました。

本セミナーは、仙台地区の主にベンダ企業を対象にソフトウェア開発力の強化を目的としています。セミナーの中では、要件定義の勘どころと企業における取組み事例及び IPA が普及を進めているメトリクスを活用した定量的プロジェクト管理手法の概要を紹介しました。

今後も各地域でのセミナーを開催することで、広く事業成果の普及を推進していきます。

『ソフトウェア開発力強化セミナーin 仙台』を開催の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180130-01.html>

2. SEC セミナー開催報告(1月)と SEC セミナー開催案内(2月)

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPA は、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向等を紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

1月は、次の日程で実施しました。

・ SEC 先進事例応用セミナー ソフトウェア品質事例最前線～ソフトウェア

⁷ MISA(Miyagi Information Service Industry Association): 宮城県内における情報開発技術の利用促進・水準向上並びに人材の育成、普及啓蒙を行うことにより、地域社会の高度情報化の促進を図り、宮城県における経済及び社会の発展に寄与することを目的とする一般社団法人。

品質シンポジウム AWARD 受賞者から学ぶ～（1月30日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180130-02.html>

2月は、次の日程で開催を予定しています。

- ・システム再構築を成功に導くための手法選択と計画立案～再構築におけるリスクの正確な把握と対策の合意手順を解説～（2月15日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180215.html>

- ・障害事例から学ぶ設計ミスの防止方法（組込みシステム編）～障害未然防止のための設計知識の整理手法紹介（演習付き）～（2月23日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180223.html>

- ・安全・セキュリティ技術のフロンティア～STAMP/STPAのセキュリティ適用に向けて～（2月27日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180227.html>

- ・組込みソフトウェア開発の現場に役立つメトリクスとは？～定量データ活用推進ワークショップセミナー～（2月28日）

<https://sec.ipa.go.jp/seminar/20180228.html>

3. 共通語彙基盤イベント「官民データの利活用セミナー」の開催

（担当：国際標準推進センター）

IPAは、1月29日（月）にフクラシア八重洲（東京都中央区）で共通語彙基盤の理解を広めるためのセミナーを開催しました。

当セミナーでは、「官民データ活用推進基本法」（2016年12月）の制定で取り組みが進む官民データの利活用についての国の動向や、埼玉県と厚木市のオープンデータ公開に向けた先進的取組み事例を紹介するとともに、政府が進める「推奨データセット」を元に、共通語彙基盤を活用して、機械が可読であり、相互運用性のあるデータを整備、公開する具体的な方法について解説しました。

「官民データの利活用セミナー」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://imi.go.jp/event/0005.html>

Ⅲ. 未来の IT 社会を担う人材の育成とビジネス支援・技術開発促進

1. 「IT パスポート試験」における合格者の最年長年齢を 83 歳に更新

(担当：情報処理技術者試験センター)

IPA は、1 月 18 日（木）に国家試験「情報処理技術者試験」（所管：経済産業省）の一区分である「IT パスポート試験（i パス）」の平成 29 年 12 月度の合格者を発表しました。

平成 29 年 12 月度は 83 歳の受験者が合格し、これまでの最年長合格者（82 歳）を更新しました。

年齢別区分の 75 歳以上の受験者に着目すると、平成 29 年 4 月から平成 29 年 12 月までの受験者数は 5 名、合格者数は 3 名でした。また、65 歳以上では受験者 30 名、合格者 25 名でした。

応募者数・受験者数・合格者数等、統計に関する詳しい情報については、次の URL をご覧ください。

<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/html/openinfo/statistics.html>

2. 平成 30 年度春期「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）試験」及び「情報処理技術者試験」の受験申込みの受付を開始

(担当：情報処理技術者試験センター)

IPA は、4 月 15 日（日）に実施する平成 30 年度春期「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）試験」及び「情報処理技術者試験」（所管：経済産業省）の受験申込みの受付を 1 月 11 日（木）から開始しました。受験の申込みは、インターネットや郵送で行えます。

■ 個人申込み

郵送 : 1 月 11 日（木）～ 2 月 8 日（木） 消印有効

インターネット : 1 月 11 日（木）10 時～ 2 月 19 日（月）20 時

■ 団体経由申込み

1 月 11 日（木）～ 2 月 8 日（木）

※申込方法によって、締切時間が異なります。

実施する試験区分や願書の入手方法等、平成 30 年度春期「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）試験」及び「情報処理技術者試験」の詳細については、次の URL をご覧ください。

https://www.jitec.ipa.go.jp/1_02annai/h30haru_exam.html

iパス（IT パスポート試験）については、GBT 方式にて随時試験実施中です。
申込方法等の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/index.html>

●IPA 組織図



本書に関するお問合せ先

戦略企画部 広報G 山北・稲垣
〒113-6591

東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号
文京グリーンコートセンターオフィス
TEL : 03-5978-7503

E-mail : pr-inq@ipa.go.jp